

<資料 5 >

2015 年 12 月吉日
特定非営利活動法人
がんの早期診断・治療に必要な病理診断の総合力を向上させる会

米国 MD アンダーソン癌センターの研修コース

‘Advanced Molecular Pathology コース’を後援致します

「特定非営利活動法人がんの早期診断・治療に必要な病理診断の総合力を向上させる会」(略称：NPO 法人病理診断の総合力を向上させる会)では、この度開設される下記研修コースの主旨に賛同し、この活動を後援致します。

MD アンダーソン癌センター Advanced Molecular Pathology コース

(MD アンダーソン AMP コース)

米国テキサス大学 MD アンダーソン癌センターは、癌部門で全米 1 位^{*1}とされる癌センターで、約 2 万人が働いています。最先端治療だけでなく最先端医療の研究開発にも優れていることから、世界各国から癌患者、研究者、研修医等の医療従事者が集まってきます。

MD アンダーソン癌センター教授陣の一人である藤本淳也先生は、2012 年より同施設にて、トランスレーショナルがん研究において、日本の病理を専門とする熱意ある臨床検査技師^{*2}に対する研修の機会を提供してきました。これは臨床検査技師がより深い知識を求めて留学するには、現状で公式な枠組みがない事を鑑みて始められました。

この取り組みは以下の 3 つコンセプトを志す臨床検査技師、病理検査技師、病理の先端技術に興味のある方を対象としています。

1. 最先端の分子病理学的手法をいち早く体験・習得し、日本の病理学研究室、検査室へのフィードバックを担いたい。
2. アカデミアにおけるトランスレーショナルリサーチのコンセプトを学び、基礎研究を現実の医療に応用し、医療の発展に貢献する流れを牽引したい。
3. 後続の認定病理検査技師、学位取得研究者や若手医師に新たなキャリアパスを提示・指導したい。

MD アンダーソン AMP コースは、米国における Pathology Assistant よりもさらに先進的なプログラムであり、世界をリードできる人材育成の可能性を秘めています。このプログラムは、病理医不足と云われて久しい病理学を取り巻く現状の中で、病理医とともに Non MD の「パソロジスト」としてスキルアップをめざすことで、病理医不足の現状を側面から支援し、打開する方法として期待されます。

NPO 法人病理診断の総合力を向上させる会は、これまでの活動を経て MD アンダーソン AMP コースの主旨に賛同し、この活動を後援致します。

*1: アメリカ全土の 5000 病院の中から疾病毎に順位をつけたもので。アメリカ 3 大ニュース週刊誌の U.S. News & World Report' s より発表される
(<http://health.usnews.com/best-hospitals/rankings/cancer>)

*2: 臨床検査技師 (Ph.D コース大学院生、大学院修了修士保持者)、将来分子病理業務に携わる計画のある学位保持者

Junya Fujimoto M.D., Ph.D.

Assistant Professor, Department of Translational Molecular Pathology

Coordinator of UT-Lung SPORE Thoracic Tissue Bank, Division of
Pathology/Lab Medicine

Thoracic Molecular Pathology Lab (Dr. Wistuba' s Lab)

The University of Texas MD Anderson Cancer Center

E Mail address; JFujimot@mdanderson.org

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

担当: NPO 広報委員 野島久美子 (サクラファインテックジャパン株式会社)

TEL: 03-5643-2632 FAX: 03-5643-3381 e-mail: byorinpo@pathcare.jp